

# 2021 特集 聖堂聖別百周年を迎える①

## 大きな礼拝堂を求めて

現在川越基督教会で使用されている礼拝堂は、1921（大正10）年に竣工し、マキム主教司式で聖別式が挙行されました。来年の4月で聖別百周年を迎えることとなります。

当教会の初めての礼拝堂は、伝道開始11年目の1889（明治22）年に本町14番地に落成されました。しかし、その4年後の1893（明治26）年には川越で大火があり、礼拝堂が焼失されましたが、その年の12月にその場所に新礼拝堂が再建されました。しかしながら、急場しのぎ的に建てられたものなので、使用上問題も生じ、礼拝堂を何とかしようという機運が1897（明治30）年



本町教会

ろから起こって

来しました。その

ような中で当時の

のクリスマス祝

会費の残金を基

金とし、宣教師として来日間もない

ミス・アプタン、ミス・マータンの

献金と米國ミツシヨンの援助で、1

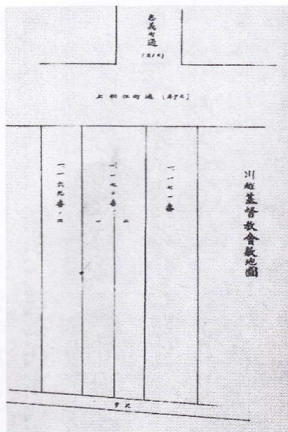
908（明治41）年に現在の地、松

江町の丁字路突き当りに244坪の

土地を購入することが出来ました。

しかし礼拝堂建設をするにはまだ資

金が十分には足りませんでした。



川越基督教会敷地

1904（明治37）年にアメリカから川越に來任したヘーウッド宣教師も、新しい教会を建てることに強い希望を持っていました。アメリカ聖公会の伝道局の機関誌、1908年9月の「スピリット・オブ・ミツシヨンス」の中で彼女は次のように記しています。「川越には美しい寺もあり、また大きな絹工場や新しい警察署、それに改築された学校もあ

る。しかし、私は教会そのものを観

るために訪れた人のことはあまり聞

いたことがない。おそらく教会がど

こにあるのか知っている住民はほと

んどいないのであろう。毎日のよう

に、そして特に正月や休日には地方

からたくさんの人々が市場や娯楽を

得るために川越にやって来るが、お

そらく約半数の人は、とても大きな

二つの店の間にある興味をそそらな

い町の教会の建物には決して気づく

ことはないのであろう。大火のため再

建された現在の教会は、礼拝をする

ための一時的な場所として11年前

に建てられた。**(注)** その建物は

『荷造り用の箱』という言葉ですっ

と言われて来たが、皮肉にもまさに

その名前にふさわしい。

教会員がその建物を見ても決し

て教会のしるしとしては認めないだ

ろう。また、一般の人にその建物を

指さして教会だと教えてもキリスト

教の信仰の力と美しさは決して伝わ

らないであろう。キリスト教という

のは、わびしい希望、使い古した迷

信ではなくて、生きる上で必要な信

仰なのだということを目の出会う何

千もの信仰をもっていない人たちに

示し、宗教の力と美しさに対する価

値ある証を持たせることは大切な目

的である。これが川越に新しい教会

を必要とする私の理由なのです」。

THE

## Spirit of Missions

AN ILLUSTRATED MONTHLY REVIEW OF CHRISTIAN MISSIONS

JOHN W. WOOD, Editor. HUGH L. BURLINSON, Associate Editor. CYRIL B. BUCKWELL, Business Manager

October, 1913

### CONTENTS

Protestantism: The Internal Struggle Since the Peace	Page 104
Internal: The Founding of the Kingdom	102
The Government of Missions	102
In the Wake of the Cross	103
An "Eminent" Preacher of the Kingdom of God	107
How Missions	112
"How to Reach the East: David Livingstone"	114
La Vera	117
In England: Missions	119
The Christian Mission: How to Reach	120
"All Souls and Orphans"	122
The Issue of a Chinese Hospital	122
Parochial: Christ in the Temple	125
From the Work of the Protestant	125
The Church and the Streets in Java	125
The Man Who Wrote to China to be Christian	125
The Letter Box	125

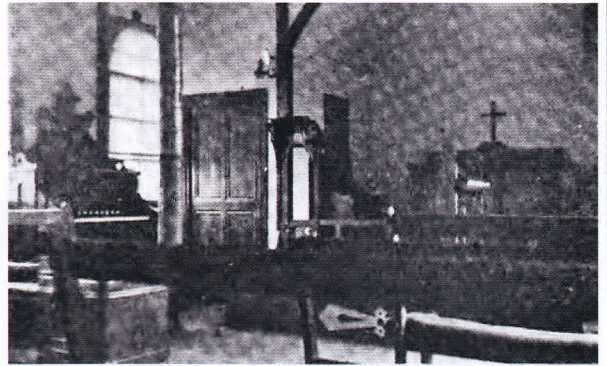
## 田井正一司祭の投稿

前述のとおり、1908年に多くの人の努力により、新しい礼拝堂を建設するための土地を購入しましたが、礼拝堂建設のための資金が集まらず、援助をアメリカのミツシヨンにお願ひするために田井正一司祭が1913（大正2）年10月の「スピリット・オブ・ミツシヨンス」に以下のよう投稿しました。

「川越には観る人の心の中に神に心を寄せる気持を起こす寺や神社が多い。しかし、私たちキリスト者が礼拝をして、真実の神を礼拝する人を導く私たちの教会は、残念ながらその様な気持ちは全く起こらないと言つてよい。今までの教会の建物は言葉では表現できないほど貧弱で、みすばらしく、見るに耐えないものであった。雨が降れば雨漏りはするし、体裁のよくない小屋のようなそ**(注)** 再建は師が来日した年から

米國聖公会機関誌





「荷造り用の箱」と言われた礼拝堂

の建物は少し風が吹いても揺れ、腐った土台はきしむ音がする」。

更に「四年前私たちの努力に応じて新しい教会を建てる土地を買うことができた。教会員ばかりでなく教会員でない友達の間にも大きな喜びが起こった。新しい教会が私たちに必要であると最初から主張していたキリスト教徒でない町の人たちは通りで私を止めて、私たちの希望が近く実現するためのお祝いの言葉を伝えてくれたのである。しかしながら、四年後の今でも未だそれが少しも前進してはいない。喜びと希望の両方もが消えてしまった。新しい教会の建設の話は私たちの会話の中にはほとんど出なくなりました」。

……しかし、もう一度祈りの中で神に願いを求めた」

なお、この機関誌を読んだニューヨーク大学教授のF・M・ピーターソン教授夫人はご夫妻と共に募金に応じてくださり、礼拝堂建設の実現に大きな役割を果たしてくれたのです。

以上、ヘーウッド宣教師と田井正一司祭の新礼拝堂建設の思いを紹介しました。それぞれお二人の強い感情も含めて信念を語られています、

その実現を目指す中、川越の町や人々との心の交わりを大切にしている気持ちに十分に伝わっているように思われます。

**資料保管委員会**

**アンブローズ 森 信幸**

**【ご案内】**

宣教師が書かれた文書類が翻訳されています。お読みになりたい方は資料保管委員会までどうぞ。